

共通の課題 相互に学ぶ

「グラウンドワーク 問題を抱える点で江華三島(GW三島)の島の水田と共通点もある。今回の訪韓で学生たちは

は首都ソウルに復元された清溪川も視察した。熊谷唯さん(21)はた。ビジネス街を流れる「大学のゼミで東日本の上流部は両岸と川底 大震災被災地の宮城県でコンクリート部分が 山元町で防災林の植樹が多いものの、都心の貴 をしているが、今まで重なる憩いの場となって 維持管理の大切さを考えている。一方、下流部は えていなかったことに両岸に草木を植えて 気付いた。私たちが植自然の再現を目指し 樹したコナラやネムノたものの、枯れた草 キも、住民に愛され保木もあり、一部では悪 全維持されないと、た臭も漂う。維持管理で だの雑木林になってし

交流は未来へ

清溪川 ソウル中心部を東西に流れる河川。1958年以降、道路で水面は覆われていたが、後に大統領となる李明博ソウル市長が公約に基づき2005年に復元。1日約6万人が散策するソウルの新名所になった。一方、流れる水は近くの漢江からくみ上げた人工河川で、復元の美名の下の開発事業に過ぎなかったとの批判もある。

海越え続く

環境の道

グラウンドワーク三島の挑戦

下

「人的関係さらに深めたい」

まうかもしれない」。た」と話した。

同じく長野大3年の佐藤瞳海さんは「何も知らずに清溪川を見たら『都会の真ん中にこんな場所があつてすてき』で終わっていた。歴史や経緯を知り、この川は未完と分かった。今年も日本側の訪

韓前に、8月25〜27日、韓国側学生16人が三島を訪れ、環境資源を生かした街づくりを学んでいる。

交流を韓国側はどう見ているのか。韓国ナショナルトラストの朴道薫・自然遺産部長は「これまでローカルな活動をしてきたが、国際交流により、住民のバイカモや環境活動への関心が高まった」と説明。また「南北軍事境界線付近の林野や古民家など全国10カ所で市民遺産を管理しているが、バイカモ保全是その模範となっている」と評価する。



復元された清溪川を視察する参加した大学生ら
|| 韓国ソウル市で

GW三島の渡辺豊博事務局長は「富士山と濟州島の漢拏山の保全などバイカモ以外でも日韓で似た課題を抱える分野は多い。それをどう解決していくのか、互いに現場に行つて学び合いたい」と語る。そして「今後も20年、25年と交流を積み重ね人的関係をさらに深めたい」と明日をみつめる。

(この企画は石川宏が担当しました)